

国際熱核融合実験炉（ITER）計画の概要

平和的目的のための核融合エネルギーの科学的及び技術的実現可能性の実証を目標とした国際共同プロジェクト

経緯

- 1985年11月の米ソ首脳会談が発端
- 1988年～1990年 概念設計活動（CDA）
- 1992年7月～1998年7月 工学設計活動（EDA）
日本、米国、EU、ロシアの4極で実施
- 1998年7月～2001年7月 工学設計活動（EDA）延長
本体建設費を従来に比べ半減化する設計活動を実施
(1999年7月の米国撤退後は、日本、EU、ロシアの3極で継続)
- 2000年4月 非公式政府間協議を開始（同年12月に終了）
- 2001年2月 ITER理事会（最終設計報告書の報告）
- 2001年前半 公式政府間協議開始（予定）
- 2001年中頃 各極が誘致（1極1サイト）の是非を表明（予定）

我が国の取り組み

原子力委員会ITER計画懇談会：

我が国への誘致の是非について審議

国に誘致要望を表明している自治体：

北海道（苫小牧市）、青森県（六ヶ所村）、茨城県（那珂町）

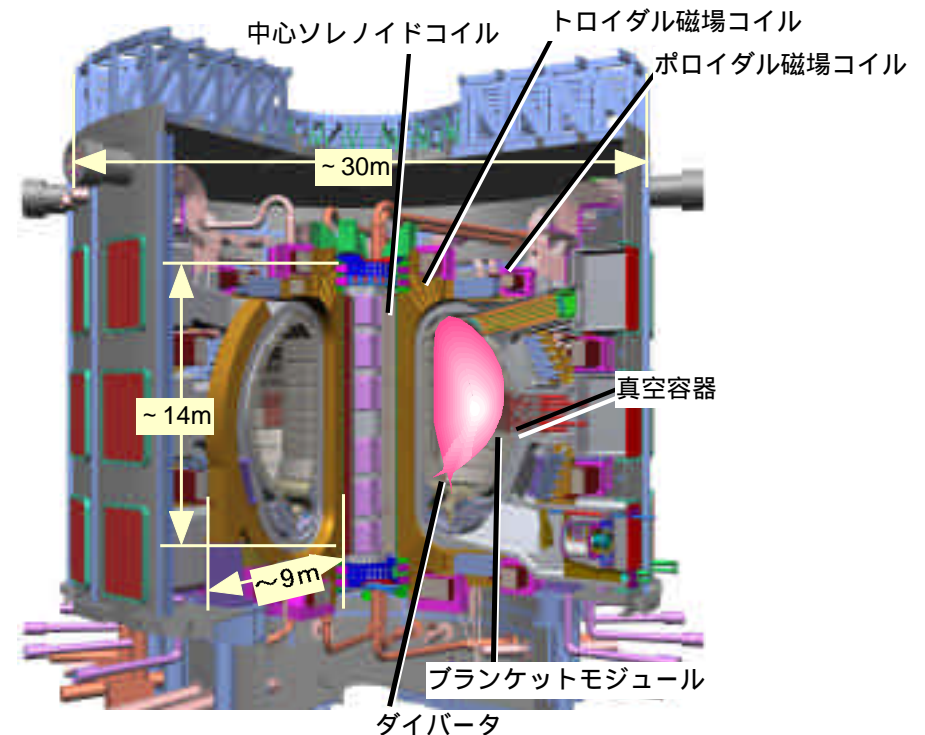
本体建設費の見積り：約4500億円

（最終設計報告書（案）に基づく共同中央チームの試算）
（この他に、付随的経費、立地地点固有の経費等が必要）

ITER事業体：

国際機関（もしくはホスト国の国内機関）として設立

ITER本体概要図



主要諸元

核融合出力	：	50万kw	1
プラズマ主半径	：	6.2m	
プラズマ副半径	：	2.0m	
プラズマ電流	：	1500万A	2

1：70万kwまで運転可能 2：1700万Aまで運転可能